

## ☆研究ノート(その他)

### ＊大学生の就職にかんする制度、概念の相違——地域研究・国際比較の難しさ

ロシアでは、日本のように新卒一括採用が実施されていないため、就職と学生の区分が曖昧である。ソ連時代から通信教育の社会人大学生が多かったこともあり、大学生がフルタイムで働いていることにそれほど違和感はない。ただし、ソ連時代、「高校卒業直後に」大学に進学した学生はエリートであり、基本的には国家によって専門に応じた卒業後の仕事が決められた。在学中は住居や奨学金を受けとり、アルバイトをする場合であっても専門知識や外国語能力を活かせるような職に就いていると話す学生が多かった。しかしながら、現在では大学の市場化・大衆化は進み、大学生の数は増加し、専門に関係のない低賃金のサービス業でのアルバイトに従事する学生が増えている。また日本のように正社員と学生アルバイトの区分が明確ではないため、学生ではない他の社員と同様に働いている学生も増えている。これには、日本の企業がアルバイトの経験をあまり重視しないといわれる一方で、ウラジオストク（ロシア極東の中心都市）の企業の85%以上が、採用の際に6か月以上6年までの就業経験が不可欠あるいは望ましいと考えている（Жаврид 2009）ことも関係しているのだろう。経験が重視されるということはロシアでは新卒が優位ではないことを示しており、日本では今のところ当たり前とされている新卒一括採用の優位については、ロシア人に説明してもなかなか理解されない。

このような相違を考えると、新卒一括採用の正社員就職を重視する日本の大学生の就職と、ロシアの大学生の就職を比較することは、非常に難しい。有田（2011）は、日本と韓国の現実の労働市場を丹念に検討することによって、「非正規社員」と呼ばれる現象の実態が両国で異なっていることを明らかにしている。すなわち、国際比較においては、翻訳された「ことば」を単純に同一のものと受け止めた単純な比較は許されないのであり、当該社会の現象の一つ一つの実態を見極めていくことが非常に重要となってくる。近年では英語やデータ分析ができれば、世界のあらゆる統計データを分析し、国際比較が

できるようになったかのように思われている向きがあるが、それは大きな誤解であり、地域研究が誤った分析を招かないために非常に重要な役割を果たしている。ロシアの大学生の就職にかんする研究においても、同様の心構えが常に必要である。

#### 参考文献

有田伸「非正規雇用概念の適用過程からみる韓国労働市場の「格差」——日本との比較を通じて」『社会科学研究』62(3・4), 2011, 77-97.

拙論文「ウラジオストクの大学生の就職事情——極東連邦大学の取り組みを中心に」『ユーラシア研究』46, 2012, 13-16.

Жаврид Т.В. (2009) Молодой специалист на рынке труда города Владивостока: оценка работодателя //Перспективы развития молодежного рынка труда дальнего востока в условиях экономического кризиса: научно-методические материалы межрегиональной научно-практической конференции (25-26 марта 2009 г.) / отв. ред. Г.Г. Попова. Владивосток: Изд-во Дальневост. ун-та, 95-107.